

小学校図工における全学年合同授業の考察

— WORKSHOP IN FUKUSHIMA —

有 賀 忍*

はじめに

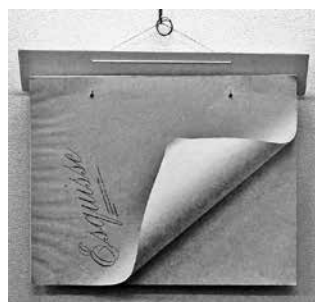
本稿は福島県の小学校に於ける全校生合同授業の記録であり、またその可能性についての考察である。

WS 実施校は三校。科目は図工。テーマは一校が「スーパーミラクルボール絵本」制作。また一校が「毛糸で作る一筆描き絵本」の制作である。全学年合同授業の他に小学校の要望により、一校は小学3年生のみに授業を行った。テーマは「毛糸で作る一筆描き絵本」。全学年合同授業と同じ内容で、その記録も併せて記した。結果的に全学年合同授業と単学年授業とを比較する事ができた。

合同授業の問題点

果たして全学年の子どもたちが一堂に会して授業を行うことが可能か、また効果が得られるのか。以下の問題点が考えられた。

- ① 年齢による理解力の差がネックになるのではないか
- ② 同様、技量の差（ハサミや穴開け、糸通し、糊づけなど）
- ③ 同様、集中力の差（授業は1時間目、2時間目に渡る）
- ④ 上級生を人見知りしないか
- ⑤ 1年生～6年生縦割りのグループ制なので、



WS 会場の黒板に下げた「エスキース用紙ブロック」子どもたちに、前に出てもらいこれに太いマジックで、一筆描きを“実演”させる

他の人の制作進度、出来不出来が気にならないか

とにかく、やってみよう

本イベントは、公益社団法人「小さな親切」運動本部のプロモーションで行われた。今までは紙芝居による道徳授業が主であったが、今回は初めての科目「図工」での WS 開催となった。僕は依頼を受け、まず面白いこと、飽きさせないこと、そして集中させられること……この3つを考えた。前記の問題点もあって、何をさせるか……テーマの選択を熟考した。

新学習指導要領の生きる力の目標の第2章第7節「図画工作」には、三つのポイントが記されている。1学年及び2学年、3学年及び4学年、5学年及び6学年とも、その表現は多少違うものの、「つくりだす喜びを味わう」「豊かな発想をする」は同じである（他の一つのポイントは作品からの

* 江戸川大学

感じ取り＝鑑賞)。

指導要領の2つのポイントを押さえ前記した“面白い”、“飽きさせない”、“集中させる”ものとして僕は絵本作りを選んだ。全員に個別アドバイスを要す“ハードな仕事”を覚悟の上で臨んだ。

テーマは《絵本作り》

世界でただ一冊しかない絵本を作ろう！

小学校の所在地は三校とも福島県である。子どもたちを元気づけようとの思いもあって、作る楽しさ、表現の面白さを味わいながら絵本を完成させる事を企図した。全員異なった表現をする……この醍醐味！ 巧拙は問わない。優劣も関係ない。子どもたちの“達成感”が、自信につながると信じて。

二時間弱で、絵本が出来るのか？

絵本のタイプ…… [継起性絵本] と [連続性]

「低学年生も一緒」の難しさもさることながら、一冊の絵本を作り上げるのはそう容易なことではない。一般的にはストーリー＋絵で絵本は構成されている。教室で限られた時間内にお話を作ることも、場面場面のプロットに割ることも、さらにはその場面に合った絵を付けることも至難である。全員が完成となると不可能と言える。このストーリー型絵本を継起性絵本と言うが、時系列で話が進み、各ページ（場面）を入れ替えることはできない。継起性絵本は今回のWSには無理である。一方、ページを入れ替えたり、シャッフルすることが可能な絵本がある。これを連続性絵本

と言う。同じジャンルのモチーフを幾つか集めた形（連続させた）の絵本だ。「なかよしどうぶつのおやこ」とか「のりものえほん」等がこの類いだ。動物の親子の絵を集めたもので、動物の登場順序が違ってても成立つ絵本。ページ数も自由な所がいい、お話もいらない、絵を描く力がない幼児でも可能だ。これで、行こう！

WSで作る絵本

エンドレス絵本「スーパーミラクルボール」と、毛糸であそぼう「ひとふでがきクイズえほん」その作り方（実演）

エンドレス絵本「スーパーミラクルボール」

蛇腹に綴じた色ラシャ紙にマジックインキで道、野、山、海、坂、階段等を黒線で描いていく。その見開きごとにボール（紙を丸型に切り抜いたもの）を貼って行く。次に、あらかじめ作っておいた創作オノマトペを、見開きの場面を考えながら書き入れる。このボールは、鉄のように堅くなり、マシュマロのように柔らかくもなる。又、大きくも小さくもなり、割れても復元する不死身のスーパーミラクルボールである。子どもたちは、その魔法の力を持ったボールを配置して行く。めげない、へこたれない、あきらめない、絶対に最後まで到達すると言う固い決意を示してもらう。絵本制作を通じて“やり通す”気持を育てることも狙いの一つであった。

表紙、裏表紙の端にマジックテープを付ける。二つを接着することにより表紙、裏表紙が見えな



配布教材《一人分》



くなる。最初のページと最後のページがくっつくことにより、始まりも終わりもない“エンドレス”絵本となる。謂わばメリーゴーランドを絵本にした様なもので、どこからでも開いて楽しめる絵本となる。

ボールには顔の表情を描き入れてもよい。急な坂道を登る時の顔、階段をトントン軽やかに跳ねて下りる時の顔、或は野原を転がって進む時の顔など。黒板に簡単な漫画的表現を描いて参考にしてもらう。感情表現は重要なので、汗や涙を描き入れたり、ボールが転がる、はずむ、飛ぶ、跳ね上がる、落ちる、分裂する等を効果的にあらわすよう動線の描き込みも教える。始めにマジックで黒線をグイグイ引いて行き、それが絵本になると言う、通常の絵本作りにはないダイナミックなやりかたであり、子どもの表現欲を満たすものと考え。

毛糸であそぼう「ひとふでがきクイズえほん」

毛糸を使ってオブジェクトを線描、それも一筆描で表し画用紙に糊づけする。毛糸での作業に入る前には青と赤の色鉛筆を用いて一筆描きの練習をする。(これも一緒に加えて綴じて絵本にする) 青鉛筆で風船や、リングや家等の簡単な造形を描き、だんだん魚や鳥やゾウさんなど複雑なものに挑戦させる。子どもたちの描きたいものを聞き、一筆描きの描き順を黒板で教えることも。

次に、本番の毛糸での制作に入るが、まずは簡単な例題をプリントした用紙に毛糸を貼付けてみる。画用紙に糊をたっぷり塗ると言うより盛り上げる感じにすることを、テーブルを廻って実演し

て見せる。

製本

両絵本とも製本はしっかりする。絵本のタイトルを考える。作者名や出版社名も記入する。奥付用紙も最終ページに貼り、絵本の体裁を整える。

これらは子どもたちに自分の力で絵本を作り上げた満足感、達成感を与えたいがためである。生まれて初めての絵本制作だ。小学生では、減多にないこと……そこも強調し子どもを励ました。

[ケース スタディ1]

実施校 福島市立川辺小学校

福島県石川郡玉川村川辺館 171

1 年生 6 名／2 年生 11 名／3 年生 9 名
4 年生 11 名／5 年生 13 名／6 年生 9 名

日 時 2014 年 1 月 20 日

教 室 体育館

時 限 2、3 時間目 (9 : 15 ~ 11 : 05)

テーマ エンドレス絵本制作 (創作オノマトベを活用) 「スーパーミラクルボール」

制作例



見開き場面「テター!」が、創作オノマトベ中央の緑色の丸い紙片が“スーパーミラクルボール”

授業の実際

① 準備体操

体をほぐすため、緊張感をなくすためのウォーミングアップ《ゾウ三体操》から始める。一年生に前に出てもらい並ばせて行なう。(ゾウさんのお面をプレゼント)

② オノマトペ創作

五十音図をひろげ、目をつむり指を置く。指で指された文字を組み合わせて音(言葉)を作る。出来るだけ多く作る。長音、促音、音のリフレイン、展開も教える。

③ 繋げてある色紙(ラシャ紙、ミューズコットン紙)

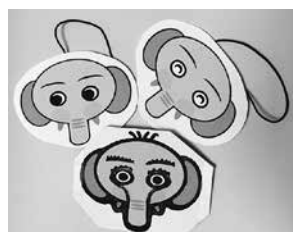
本の形に蛇腹折りし、マジックペンで道、丘、山、海、空などを描き込む。

④ ミラクルボールを作る

黒または色紙を2~4センチの丸形にカット。大小10枚ほど用意する(一枚は表紙用)。

⑤ ③に④のボールを貼る

見開きページに一個のボールを、配置を考えながらのり付けして行く。



《ゾウ三体操》で配布したお面

⑥ 5に②のオノマトペを書き込む。

⑦ 表紙、裏表紙に厚画用紙を貼り、表紙、奥付を書く(タイトル、作者名の他オリジナル出版社名も作る)。

⑧ ⑦の表表紙、裏表紙にマジックテープ(凸凹)を貼付ける。

子どもたちは、作業に入る前、「ゾウ三体操」で体をほぐした。大きな声をはりあげ、「作るゾー・遊ぶゾー・頑張るゾー」。その後、絵本作りの説明。「世界に一冊しか存在しない絵本をこれから作るんだ……それがどれくらい凄いことか」を話す。「期待感を抱かせ、完成作を全員が持ち帰れる……」安心感も与えた。



1 どんな絵本をつくるか



2 体育館の会場



3 作ったオノマトペを読み上げる



4 ボールを実際に貼ってみせる



5 縦割り構成のグループ制



6 個別アドバイスをし歩く



7 蛇腹に線を描いて行く



8 エンドレス絵本の表紙

[ケース スタディ2]

実施校 福島県市立佐原小学校

福島市佐原字田中前 24 番地

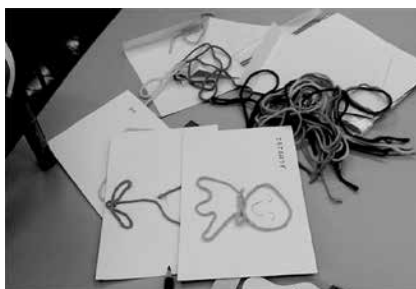
1 年生から 5 年生まで 計 31 名 (6 年生 0 名)

日 時 2015 年 1 月 15 日

教 室 多目的ホール

時 限 1、2 時間目 (9:20 ~ 11:05)

テーマ 毛糸でつくる一筆書き絵本制作
(一部色鉛筆で制作、クイズ仕立て)



「毛糸で一筆描き」絵本 一ページの裏面。
空色はてるてる坊主、黄緑は花。表面には問題
(一筆描きが何かのヒント) が書かれている。

授業の実際

① 準備体操

体をほぐすため、緊張感をなくすためのウォーミングアップ《ゾウ三体操》から始める。

一年生に前に出てもらい並ばせて行なう。(ゾウのお面を全員にプレゼント)

② 一筆書きの練習

線は青鉛筆で始点と終点を赤鉛筆で印する。

③ “お題”を出し、簡単なものを幾つか描いてもらう。風船、りんご、いえ、さかな、へび等

④ 絵本用紙(画用紙)にスティック糊を塗布。糊上に毛糸を一筆描きしながら貼付けて行く。

⑤ 裏面にクイズの問題を書く。一筆描きしたものが何を当てさせるヒントや、その文字数分の□□□□を記入する。

⑥ ②と⑤を順序を考えて束ねる。見返し用紙を上と下にあて、ホチキスで綴じる。

⑦ ⑥を表紙用紙でくるんで糊づけ、製本する。

⑧ 表紙用イラストカードに本文の一筆描きの一つ選んで少し小さく描く。タイトル(題名)を考える。作者名葉勿論のこと、各自思い思いの出版社名を書き込む。奥付用紙に記入して貼る。

子どもたちは、夢中になって制作に没頭した。トイレタイムにも席を立つものがいなかった。例題(サンプル)の一筆描きのものや動物の他、自分が描きたいものを、どうしたら一筆でできるか、聞いて来る者が現れ、それを見て(勇気を得るか)何人もが積極的にほくの前にやってきた。黒板にはエスキース用紙のブロックが吊るしてある。それに太マジックで一筆描きをして見せるのだが、必ずその後、子どもにも目の前で実際に描かせてみる。子どもたちは屈託なく、皆の前で実行した。大きな自信になったと思う。

班分けは一年生から五年生までの混合で、これは素晴らしい効果をもたらした。即ち、高学年生が低学年生に優しく教えている光景をよく見た。低学年生の、何物をも恐れない素直な心での表現は、高学年生には感ずるところがあったであろう。周囲を意識せずに、どんどん制作を勧める低学年生の素晴らしさは、高学年生の心に響いたに違いない。ワークショップが成功か否かは子どもたちの表情で分かる。一心に楽しんでいれば、うまく行っただと考えると良い。佐原小の子どもたちの熱中度は凄く、時間が短く感じられた。

結果として、全員が束(本の厚み)の熱さの差こそあれ、絵本を製本まで完了させることが出来た。



1 それぞれのグループが一年生～五年生で構成される



2 色鉛筆で一筆描きの練習



3 始点と終点に印をつける



4 毛糸を糊づけするのは、手早くしなくてはならない



5 制作例『うでがきが いっぱい』『ひとふでがきの ころろ』。奥付もある

[ケース スタディ 3]

実施校 福島県福島市立余目小学校
福島市宮代字榴石 45

3 年生 20 名

日 時 2015 年 1 月 16 日

教 室 図工室

時 限 1、2 時間目 (9:20～11:05)

テーマ 毛糸でつくる一筆書き絵本作制
(一部色鉛筆で制作、クイズ仕立て)



クイズ仕立ての絵本を、例題をだしながら説明する

授業の実際

佐原小学校と同様だが、授業は三年生のみで行なった。

三年生全員にゾウさんのお面を配り、マジックインキで自由に目を描き入れる。ウォーミングアップの《ゾウ三体操》からスタートした。毛糸での制作に入る前は色鉛筆で一筆描きの練習をした。これが大変盛り上がった。子どもたちは積極的に新しい一筆描きに挑戦、黒板に吊るした紙に皆が見つめる前で堂々と描いてみせた。これは自信につながったと思う。

やはりというか予想通り、全学年合同授業より単学年のほうが進み方が早く、絵本のボリュームも結果的に厚くなった。真似を認め、「質より量」という方針で行なう WS は活気が漲っていた。子どもたちの教室内の移動は自由としたせいで、人のアイデアを真似して自分でも作って楽しむ子どもも多く見られた。

面白い一筆描きの鉛筆画や毛糸での表現は、「ちょっと これ、貸して」とクラス全員に見え



1 何を作るか説明



2 毛糸を糊に埋めるようにして貼り付ける



3 一人一人にアドバイスして歩く



4 「つちのこ」ユニーク!



5 毛糸をぐるぐる巻きにして表現



6 思い思いにページを広げてみせ合う

るように掲げて見せた。僕は机の間をアドバイスして回りながら、これを何度となく行なった。

クイズ仕立ての問いかけ（問題とヒント）について。これは初め戸惑っている子どもがみられた。一筆描きの単純な形体……風船、雲、傘、コップ、くらげ、魚……等を当てさせるヒントの言葉を考えるのに以外と手こずっていた。当てさせないように難しくしようとして思い迷ってしまうのだ。これも、やり方が一旦わかれば、あとは問題なくスムーズにキャッチコピーを書き込むようになった。

最後は校長先生、担任の先生も入っていたが、全員集合写真を撮影してWSは終了した。

まとめ

「絵本作り」のテーマ設定、その結果は?

本稿「はじめに」の「とにかくやってみよう」で記した通り、全学年合同授業は“面白い”、“飽きさせない”、“集中させる”を踏まえてのテーマ設定をした。新学習指導要領の生きる力の目標の第2章第7節「図画工作」の二つのポイント「つ

くりだす喜びを味わう」「豊かな発想をする」を満たすものとして、毛糸で作る「一筆描き絵本」の制作を行なったが、概ね成功裏に終わったと言える。生徒には得るのことが多いと考え、全学年合同授業は改めて考える価値があると思うに至った。以下は結果報告である。

生徒の受け止め方・教室内（外）の雰囲気

- ① 一筆描きでは、新作を“編み”出した。
- ② 毛糸を貼付ける難しさにもめげなかった。
- ③ 笑い声や歓声が上がリ活気があった。
- ④ 強い集中力で制作し、飽きた者はなかった。



- ⑤ 全員が頑張って時間内に絵本を完成させた。
- ⑥ WS終了後、生徒が校長室へなだれ込んで来た。握手を求めてきた。(満足感および親近感との理解)

有賀忍のWSの指導とねらい

- ① 創作の楽しさ、醍醐味を分からせる。
- ② 全員、どこかいい所を見つけ褒める。(自己肯定)
- ③ お互いに作品を見せ合う(相手の理解・様々な表現を知る)
- ④ 全員作品を時間内に仕上げさせ、自分で解決する力を養う。(達成感)
- ⑤ 全員で一冊の絵本を作った満足感(連帯感)を感じさせる。※川辺小学校

全学年合同授業から得られるもの

- ① 歳の差による様々な表現の違い(面白い発想や様々な工夫)をお互いに見ることが出来る。
- ② 屈託なく素直に制作に入り楽しむ低学年生をみて、高学年生は意識を楽にさせられる。
- ③ 挨拶や後片付けなど、上級生を見て下級生は学ぶことが出来る。
- ④ 上級生が下級生に助言、手助けする優し心が育まれる。
- ⑤ 下級生に上級生に対する感謝の気持ちが生まれる。(自分が上級生になった時、相手への思いやりとなって現れるだろう)
- ⑥ 発想(技術は別として)のユニークさは、学年に関係なく上級生も下級生もお互いを“認め”あうきっかけとなる。

補遺

○準備について

本ワークショップの準備には相当時間を要した。色ラシャ紙や画用紙のカット、つなぎ合わせ、毛糸カット、見返しや奥付け用紙のカット、教材

セット袋詰めなどなど、細かな手作業に明け暮れた。一部を「小さな親切運動」本部のスタッフにお願いした。すべて、生徒に教室での作業にすぐ入ってもらう為である。時間があれば始めからこどもたちに、下準備から行なわせるとよいと思う。

○佐原小学校のHPより

—前略—「世界でたった一つの絵本」作りです。先生の説明を聞きながら、子どもたちは思い思いの絵本作りに夢中でした。

子どもたちの発想は中々大人にはできません。「へえー！ おもしろい発想だな」と思わせる作品がたくさん出来たようです。1つの作品にこだわる子、とにかくたくさん作りたい子……いろいろでした。本日、持ち帰りましたので、お子さんと一緒に世界にたった一つの絵本を開きながら、子どもたちの作ったクイズに答えてみてはいかがでしょうか。結構難しい問題もあるかもしれません。

「佐原小ライブラリー」1月15日《工作教室》より抜粋

○全校生が一冊の絵本を作る

川辺小学校では、生徒一人一人が絵本を作った他に、全員に作品一見開き分を提出させた。制作者名一覧をつけ、見返し、表紙をつけ手づくり製本し、小学校に贈った。

川辺小学校は既に廃校が決まっているという。子どもたちの最後の合作となろう。記念に残る一冊とはいえ、哀しいものである。

五ノ川村立川辺小学校		この絵本を作ったひと		2014年1月20日
1年生	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠
2年生	大内 悠	大内 悠	大内 悠	大内 悠
3年生	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠
4年生	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠
5年生	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠
6年生	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠	山崎 悠

一年生から六年生まで制作者全員の名簿